

p **ps auxw**
○ 実行中の全プロセスの情報を一覧表示する

psは実行中のプロセスの情報を表示するコマンドだ。「ax」オプションだけで全プロセスの情報が得られるが、この例ではプロセスのユーザーを表示する「u」オプションと長い行を折り返して表示する「w」オプションをあわせて指定している。

psにはハイフン付きのオプションとハイフンなしのオプションの両方がある。たとえば「u」と「-u」は別のオ

プションである（詳しくはmanページを参照）。ただし、これはあくまで特殊な例であって、ハイフンを付け忘れるとファイル名として扱われてしまいエラーになるほうが普通だ。例外を覚えておき、通常はハイフンを忘れないよう心がけよう。

なお、誤ってハイフンで始まる名前

○ハイフンで始まる名前のファイルを削除する
`rm -- -file1`

のファイルを作ってしまった場合、それをrmコマンドで削除しようとするとき「そんなオプションはない」と怒られてしまうが、ファイル名の前にハイフンを2つ指定すれば無事削除できる。連続する2つのハイフンは、コマンドラインにおけるオプションの終わりを明示的に表すのである。

n **nkf -w --overwrite file1**
○ テキストファイルのエンコード方式をUTF-8に変換する

nkfコマンドは、デフォルトではテキストファイルの日本語エンコード方式を変換し、その結果を標準出力に渡す、つまりディスプレイに表示する。「--overwrite」オプションを指定すると、変換結果が標準出力ではなく元のファイルに書き出される。

この用例と同様の処理は、リストに示すコマンドラインでも実行できる。例中にある不等号記号(>)は、標準

出力をfile2に切り替えるための指定だ。この機能は「出力リダイレクト」と呼ばれている。出力先として元のファイルとは別のファイルを指定している点に注意。リダイレクト先に同じファイルを指定すると、処理がうまくいかずファイルの内容が失われてしまう。

なお、nkfコマンドはエンコード方

○テキストファイルのエンコード方式をUTF-8に変換する 方法2
`nkf -w file1 > file2`

式として、UTF-8 / JIS / シフトJIS / EUC-JPをサポートしている（それぞれのオプションは表を参照）。

出力エンコード	オプション
JIS	-j
シフトJIS	-s
EUC-JP	-e
UTF-8	-w

nkfの出力エンコードオプション

d **dmesg | less**
○ ブート処理のメッセージをlessを使ってチェックする

リダイレクトと並んでコマンドラインでの作業に欠かせないシェルの機能に「パイプ」がある。リダイレクトが標準出力を切り替えるのに対し、パイプは2つのコマンドの標準出力と標準入力をつなげる。文字どおりコマンドとコマンドの間でパイプの役割を果たすわけだ。

上の用例では、カーネルのログ用バッファの内容を表示するdmesgコマ

ンドの出力を、lessコマンドに入力ファイルとして渡している。バッファにはブート処理時のメッセージも保存されており、lessで内容をチェックすることで、ハードウェア初期化時に発生したエラーなどを確認できる。

dmesgとパイプでつなぐコマンドを別のものにすれば、lessとは違った便

○ネットワークデバイスeth0関連のメッセージを表示する
`dmesg | grep eth0`

利な処理が可能だ。

たとえば、リストの用例のようにgrepコマンドを使えばdmesgの出力から特定の文字列（例では「eth0」）を含むメッセージを抽出できる。このようにパイプは、つなげるコマンドをあれこれ工夫することで、さまざまな処理を実現する。